

会計システム専門監査人部会 活動報告

システム監査学会
会計システム専門監査人部会

2010年 6月 4日



All Rights Reserved, Copyright Japan Society for System Audits 2010

会計システム専門監査人部会の活動

これまでの活動成果物

- (1) 「システム管理基準追補版とSAP ERPの対比」
(2007年度研究成果) 公開済み
- (2) 「SAP ERP IT全般統制チェックリスト」及び「概要解説書」
(2008年度研究成果) 公開済み
- (3) 「SAP ERPシステム用業務処理統制評価手続例
[販売プロセス・購買プロセス]」
(2009年度研究成果) 2010年6月中公開開始予定

システム監査学会ホームページにて公開中

URL: <http://www.sysaudit.gr.jp/senmon/bukai.html>

これらの成果物の改善の為に、利用した方からのご意見やコメントを頂きたいと思えます。受付け方法は、後日上記ページにて公開します。

(頂きましたご意見、コメントへの個別の応答は行ないませんのでご了承ください)

会計システム専門監査人部会の活動 今後の活動

- 会計システム専門監査人は、
 - システム監査基準に基づく監査ができること
 - 会計システムの欠陥を指摘できること
 - 会計情報の不正・エラー等を指摘できること
 - 会計情報の保全について問題点を指摘できることが要求水準です。
- J-SOXは一段落をしたと言うのが実態ではありますが、コンバージェンスや将来のIFRSのアダプテーションにより、会計システムは刻々と変化しつつあります。
- 会計システム専門監査人部会では、財務報告の信頼性確保の内部統制監査におけるIT統制を、時代に適合した公的基準に沿った監査が出来るように、研修及び研究を行っていきます。
- IFRSに関して、今年度からSAP ERPに加え、それ以外のERPも対象にした勉強会・研究会を開催し、本格的な取り組みを行う予定です。



会計システム専門監査人認定取得をご検討ください

発表

報告1 Aグループ

「会計システム専門監査人のためのIT内部統制
監査実施ガイドの検討」

(有)アイ・ティー・シー 田口 寧

報告2 Bグループ

「SAP ERP IT業務処理統制 監査評価手続例」

黒田ITC事務所 代表 黒田 康博

会計システム専門監査人のための IT内部統制監査実施ガイドの検討

Guide of audit the IT internal control
for Certified Master Auditor for Accounting System

システム監査学会
会計システム専門監査人部会
Aグループ

2010年 6月 4日



All Rights Reserved, Copyright Japan Society for System Audits 2010

4

目次

- 発表要旨
- 2009年度研究会参加メンバ
- 検討の視点
- 検討結果
 - 会計システム専門監査人のビジネスモデル
 - 会計システム専門監査人が行うIT内部統制監査の種類
 - 「会計システム専門監査人のためのIT内部統制監査実施ガイド」の特徴
 - 本ガイドでの監査手順の纏め方
 - 「会計システム専門監査人のためのIT内部統制監査実施ガイド」の目次
 - 作成状況
- 今後の活動

発表要旨

金融商品取引法に基づき、企業の財務報告に係る内部統制についての経営者による評価や公認会計士による評価が義務付けられている。

会計システム専門監査人は、経営者又は公認会計士からの依頼に基づき、これらの評価作業(監査)を支援することが重要な業務である。

部会Aグループでは、会計システム専門監査人が、企業のIT内部統制監査支援を行う場合の実施手順や評価の指針等を取り纏め、「**会計システム専門監査人のためのIT内部統制監査実施ガイド**」を作成している。

本発表では、ガイドの作成内容・作業状況・今後の作業について報告を行う。

部会 Aグループ 2009年度研究会参加メンバー

Aグループリーダー	植野 俊雄	(I S U)
サブリーダー	田口 寧	((有)アイ・ティー・シー)
	(発表者)	
メンバー	吉川 明人	(NECネクサソリューションズ(株))
	高坂 拓也	(三井情報(株))
	清水 訓該	(TDK(株))
	藤原 徹哉	(ビジネスプレイン太田昭和(株))
	仙波 信也	(優成監査法人)
	竹下 和孝	(んじゃろ監査事務所)
	杉田 伊久夫	(元 本田技研工業(株))
	矢島 利夫	(NTTソフトウエア(株))
	宮本 和靖	(情報マネジメント研究所)
	平塚 康哲	((株)ヒラツカコンサルティング)
	加藤 篤	(愛知県信用保証協会)

(順不同・敬称略)

1. 検討の視点

「会計システム専門監査人のための IT内部統制監査実施ガイド」の検討の視点

<目的>

会計システム専門監査人が、IT内部統制監査の支援を行う場合の実施手順、評価の指針等を示すことによって、会計システム専門監査人による監査業務内容を明確にし、業務の質の向上と、依頼者からの信頼を確保する。

<検討項目>

- 会計システム専門監査人のビジネスモデル(前々期実施)
- 会計システム専門監査人が行うIT内部統制監査の種類
- 当該ガイドの特徴
- 本ガイドでの監査手順の纏め方
- 具体的な手続きの例、リスクと統制の確認項目の例、等

2. 検討結果

2.1 会計システム専門監査人のビジネスモデル(前々期検討結果)

論点

➤ 会計システム専門監査人として、どのようなビジネスができるのか。

検討ポイント

ビジネスとして参画可能な会計システム監査関連分野の整理

分類		監査内容		備考
		会計システム監査	内部統制監査	
内部監査	第一者監査	○	○	組織内部のための、内部または外部の監査人による監査
外部監査	第二者監査	○	○	発注主のための、発注主が選定した監査人による外部監査
	第三者監査	△	△	外部の監査人による外部監査
コンサルティング	—	○	○	コンサルタントによるシステム評価

備考 ・ ○:参画可能 △:会計監査人による監査の支援として参画可能

検討結果

➤ 専門家として個人、法人組織の立場で ビジネス展開する。

2. 検討結果

2.2 会計システム専門監査人が行うIT内部統制監査の種類

「会計システム専門監査人のためのIT内部統制監査実施ガイド」は、主に以下における監査活動を対象として記載する。

① 公認会計士の内部統制評価の支援

公認会計士からの依頼で、公認会計士が行うクライアント事業者の財務報告の信頼性に係る内部統制監査の内、IT統制の監査を、会計システム監査のIT専門家の立場から支援する場合

② 経営者評価の支援

事業者からの依頼で、経営者による財務報告の信頼性に係る内部統制の評価に必要なIT統制の部分の評価(内部監査等)を、会計システム監査のIT専門家の立場から支援する場合

2. 検討結果

2.3 「会計システム専門監査人のためのIT内部統制監査実施ガイド」の特徴

	本ガイド	一般書籍
監査人の立場	<ul style="list-style-type: none"> ①公認会計士や事業者からの依頼で『外部監査人(支援)』の立場で、 ②依頼組織のIT内部統制の評価結果を監査する。(内部統制監査) 	<ul style="list-style-type: none"> ①『内部監査人』の立場で、 ②自組織のIT内部統制を監査する。
記載内容	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼組織との調整事項の手順等を含めている。 ・外部監査の手続きとして纏めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部統制の一般論として実施すべき事項を記載している。

2. 検討結果

2.4 本ガイドでの監査手順の纏め方

■ IT統制の整備状況の監査手順

- IT統制整備状況監査の目的の確認
- 依頼者との事前調整
- 整備状況監査の監査計画書の作成
- IT全般統制の整備状況の監査
- IT業務処理統制の整備状況の監査

■ IT統制の運用状況の監査手順

- IT統制運用状況監査の目的の確認
- 依頼者との事前調整
- 運用状況監査の監査計画書の作成
- IT全般統制の運用状況の監査
- IT業務処理統制の運用状況の監査

《ねらい》 整備状況監査と運用状況監査をそれぞれ個別に実施する場合を想定し、活用しやすさを考慮。

2. 検討結果

2. 5「会計システム専門監査人のためのIT内部統制監査実施ガイド」の目次

1. はじめに

- 1.1 本ガイドの目的
- 1.2 本ガイドの適用範囲

2. 会計システム専門監査人とは

- 2.1 会計システム専門監査人の価値への期待
- 2.2 会計システム専門監査人の専門性
- 2.3 会計システム専門監査人の人物像
- 2.4 会計システム専門監査人の業務内容
- 2.5 会計システム専門監査人の専門性の要求水準

3. 会計システム専門監査人の活動

- 3.1 構築の支援活動
- 3.2 経営者による評価の支援活動
- 3.3 会計士監査の支援活動

(続く)

2. 検討結果

2. 5「会計システム専門監査人のためのIT内部統制監査実施ガイド」の目次

(続く)

4. IT統制

- 4.1 IT統制の定義
- 4.2 IT業務処理統制
- 4.3 IT全般統制及びIT全社的統制
- 4.4 経営者による内部統制の評価
- 4.5 会計監査人による内部統制の評価

5. IT統制整備状況監査の手順

- 5.1 IT統制整備状況監査の目的の確認
- 5.2 依頼者との事前調整
- 5.3 整備状況監査の監査計画書の作成
- 5.4 IT全般統制の整備状況の監査
- 5.5 IT業務処理統制の整備状況の監査

(続く)

2. 検討結果

2. 5「会計システム専門監査人のためのIT内部統制監査実施ガイド」の目次

(続き)

6. IT統制運用状況監査の手順

- 6.1 IT統制運用状況監査の目的の確認
- 6.2 依頼者との事前調整
- 6.3 運用状況監査の監査計画書の作成
- 6.4 IT全般統制の運用状況の監査
- 6.5 IT業務処理統制の運用状況の監査

7. 監査項目及び評価手続き例

- (1) 具体的な手続き例
- (2) リスク・コントロールと確認項目例
- (3) サンプリング

付録.

手続きチェックリスト例、各種様式例、具体的リスク・コントロール例、等

2. 検討結果

2.6 作成状況

■ 2009年度:暫定版作成

- 1～6章 : 執筆完 (別途ブラッシュアップ)
- 7章 : 執筆中
- 付録 : 執筆中

3. 今後の活動

- 7章「監査項目及び評価手続き例」の作成
 - ・具体的な手続きの例
 - ・リスクとコントロールの例
 - ・サンプリングの考え方、方法
 - 付録 の作成
 - ・「付録」の充実(手続きチェックリスト例、各種様式例、
具体的リスク・コントロール例、等)
- ※2010年秋を目途に第1版を完成予定※
- 監査実施ガイドの試用によるフィードバック
 - ・IT内部統制の監査方法と評価の指針の充実

3. 今後の活動

・「IT内部統制監査実施ガイド」7章と付録への記載内容一覧（1／3）

「7章」本文の記載内容	「付録」に記載する様式の例
(1)具体的な手続例	
(a)手続 整備状況監査、運用状況監査の ・監査計画 ・内部統制監査の実施 -内部統制監査手続 ・監査人の報告	①監査計画チェックリスト例 ②文書監査チェックリスト例 (整備状況監査) ③実地監査チェックリスト例 (運用状況監査) ④監査手続きチェックリスト例 ⑤報告書作成チェックリスト例 ⑥監査についてのアンケート協力依頼例
(b)様式 ※各種様式の項目例示	
・監査計画書 ・監査調書 ・監査報告書	①監査計画書様式例 ②監査調書様式例 ③報告様式例

3. 今後の活動

・「IT内部統制監査実施ガイド」7章と付録への記載内容一覧 (2/3)

「7章」本文の記載内容	「付録」に記載する様式の例
(2)リスク・コントロールと確認項目例	一般的なリスクとコントロールの例
(a)IT全般統制 (ア)システムの開発、保守に係る管理 (イ)システムの運用・管理 (ウ)内外からのアクセス管理などシステムの安全性の確保 (エ)外部委託に関する契約の管理	①ITGCリスク・コントロールと監査確認項目例 (左記(ア)～(エ)に対応した内容) ②不備となる例
(b)IT業務処理統制 (ア)アクセスコントロール (イ)インプットコントロール (ウ)処理コントロール (エ)エラーデータコントロール (オ)マスターデータ管理	①ITACリスク・コントロールと監査確認項目例 (左記(ア)～(オ)に対応した内容) ②不備となる例

3. 今後の活動

・「IT内部統制監査実施ガイド」7章と付録への記載内容一覧 (3/3)

「7章」本文の記載内容	「付録」に記載する様式の例
(3) サンプルング (a) サンプルング方法 ・統計/非統計的サンプルング (b) 発生頻度、件数 (c) 運用期間	① 発生頻度別のサンプルング数の例

SAP ERP IT業務処理統制 監査評価手続例

SAP ERP ITAC Audit Check List

システム監査学会
会計システム専門監査人部会
Bグループ

2010年 6月 4日



All Rights Reserved, Copyright Japan Society for System Audits 2010

21

発表要旨

昨年度Bグループは「SAP ERP」におけるIT全般統制の研究を行ない、その成果物として「SAP ERP IT全般統制チェックリスト」等を作成した。

今年度は、さらにこれを発展させる形で「SAP ERP」におけるIT業務処理統制の研究を行った。

本発表では以下の内容を報告する。

- このテーマを選定した経緯
- 検討の経緯
- 評価手続例とその詳細

Bグループ 参加メンバ

今回発表する資料の作成に携わったメンバーは次の通り。

発表者	黒田 康博	黒田ITC事務所 代表
	切山 裕明	本田技研工業(株)
	日下部 公	NECネクサソリューションズ(株) コンサルティング部
	迫田 修	情報システム監査(株) 東京支社長
グループ リーダー	志村 政一	アビームコンサルティング(株) ディレクター
	平塚 康哲	(株)ヒラツカコンサルティング エグゼクティブ・コンサルタント
	山口 直哉	TDK株式会社コーポレートストラテジー経営監査部

(順不同・敬称略)

1. 活動の背景

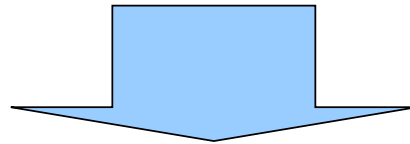
＜テーマの選定経緯＞

- 昨年度は「SAP ERP」に係る、IT全般統制の研究を行った。
- ERPはその目的からして、IT業務処理統制の対象として評価する機会が多い。
- 「SAP ERP」を熟知しているわけではない監査人が「SAP ERP」のIT業務処理統制の監査を行うためには、何らかのガイドが必要

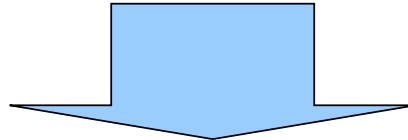
そのためには？

1. 活動の背景

IT全般統制の、チェックリストのようなものがあればよいのでは？



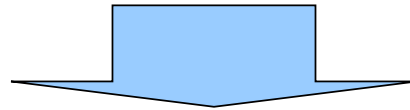
「SAP ERP」では、虚偽の財務報告が作成されてしまうリスクに対して、どのように対応しているかを知る必要がある



「SAP ERP」が提供するビジネスプロセスと統制を知る必要がある。

2. 活動の経緯

2009年8月アビーム社殿の協力を得て、SAP ERP
業務処理統制の勉強会を実施。(3日間)

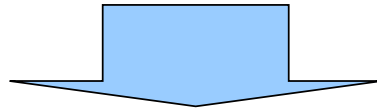


2009年9月～2010年3月成果物作成

3. 検討の経緯

<検討の経緯①>

「SAP ERP」が提供している統制で、虚偽の財務報告が作成されてしまうリスクに十分対応できるか？

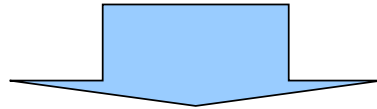


「SAP ERP」のビジネスプロセスを、そのまま利用するのであれば十分対応可能

3. 検討の経緯

<検討の経緯②>

IT全般統制が有効ならば



システムに情報を入力する際にその正当性、正確性、網羅性が担保されている事を評価すればよい

3. 検討の経緯

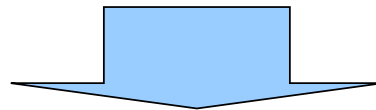
〈とりあえずの結論〉

- ・情報入力時の統制を評価する。
- ・それ以降はIT業務処理統制に全面的に依拠するため、整備状況評価としてパラメタ類が適正に設定されていることを確認する。
- ・運用状況評価として、「SAP ERP」が意図した通り動作することを確認する。

3. 検討の経緯

<検討の経緯③>

でも実際は



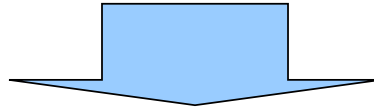
業務効率や要員上の問題から例外処理を設けている場合が多い。

SAP ERPはあくまで情報を管理するソフトウェアであり、お金や商品の現物まで管理しているわけではない。

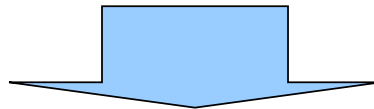
3. 検討の経緯

< 検討の経緯④ >

当たり前のことながら、IT業務処理統制ですべてのリスクに対応できるわけではない。



「SAP ERP」のIT業務処理統制という観点からは、「SAP ERP」のIT業務処理統制に限定してしまっても良いのでは

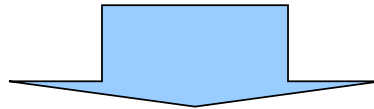


IT業務処理統制を含む、業務処理統制全体の評価手続例が欲しい

3. 検討の経緯

＜検討の経緯⑤＞

それには何らかのモデルが必要



経済産業省システム管理基準追補版(付録)のリスクと統制活動の例をモデルに検討を開始

3. 検討の経緯

＜その他＞

活動開始当初は統制を有効にするための、パラメタの設定が適切になされていることを確認するためのチェックリストを作成する方向で進んでいたが、検討の経緯であるように当初方向性より軌道修正を行ったため、最終的なアウトプットはチェックリストではなく評価手続例となった。

4. 成果物

- 昨年度の活動成果物として、システム管理基準追補版(付録)をもとに以下の資料を作成した。
 - SAP ERPシステム用業務処理統制評価手続例
 - ・販売プロセス
 - ・購買プロセス

5. 成果物イメージ

－ 評価手続例のイメージ

項番	IT統制目標	リスク	統制活動の例	統制活動の評価	評価手続きの例	
					整備状況評価手続きの例	運用状況評価手続きの例
1	マスタ登録	正当性 正当でない得意先が登録される	取引先の登録ルールに基づいて承認された取引先のみが登録される	承認された取引先のみがマスタ登録されていることを確かめる	①取引先の登録手続きが定められていることを確認する。 ②登録手続きに沿って、登録申請書がどのように承認されているのかを確認する。	①評価対象期間に登録されたマスタを抽出し、それに紐づく申請書が存在し、承認されていることを確かめる。 <手順> ・DFDKVZ00(得意先一覧)を出力し、申請書と突合して確認する。 ・F.KNA1.BED(得意先勘定権限)のみがワンタイム得意先を登録していることを確認する。 ・得意先マスタ関係は/n suim を使い、XD03(販売会計共通)、VD03(販売)、FD03(会計)で照会して確認する。
2			マスタの入力者は、アクセス権で制御されている	マスタ入力者は、アクセス権で制御されていることを確かめる	①アクセス権に関してどのような基準で付与されており、また見直しが行われているのかを確認する。 ②マスタ登録処理に関するアクセス権の設定内容を確認し、権限表通りに設定されていることを確かめる。	①マスタ登録権限のないアカウントでログインし、マスタの登録が出来ないことを確認する。 <手順> ・/n suim より、XD01(販売会計共通)、VD01(販売)、FD01(会計)で登録を試みる。
3		正当でない与信限度や取引条件が登録される	与信会議で承認された与信限度、取引条件のみが登録される	与信会議で承認された与信限度、取引条件のみが登録されていることを確かめる	①与信の登録手続きが定められ承認されていることを確かめる。 ②登録手続きに沿って、与信額等登録申請書、変更申請書の整備状況を確認する。 ③与信会議の開催状況、討議状況等を示す議事録等の整備状況を確認する。	①評価対象期間に登録された与信限度額、取引条件を抽出し、それに紐づく申請書が存在し、それに与信会議で承認されたことを示す証拠があることを確かめる。 <手順> ・/n sa38 でABAP(プログラム実行の画面)より、プログラム：RFDKLIAB(与信管理変更履歴)をインプットし、出力情報を変更承認申請書と突合して確認する。 ・SPRO>財務会計>債権管理及び債務管理>与信管理>与信管理勘定より与信限度額等を確認する。 ・OVA7 (明細カテゴリ: 与信管理有効化 変更)を実行し、与信チェックが適切に設定されていることを確認する。 ・FD33 で与信管理マスタの照会を行い、与信限度額申請書と突合して確認する。

5-1. 成果物詳細

－ 評価手続例の詳細

サブプロセス	: マスタ登録
リスク	: 正当でない得意先が登録される
統制活動の例	: 取引先の登録ルールに基づいて承認された取引先のみが登録される
統制活動の評価	: 承認された得意先のみがマスタ登録されていることを確かめる

5-1. 成果物詳細

整備状況評価手続の例

- ①取引先の登録手続が定められていることを確認する
- ②登録手続に沿って登録申請書がどのように承認されているか確認する。

5-1. 成果物詳細

運用状況評価手続の例

①評価対象期間に登録されたマスタを抽出し、それに紐づく申請書が存在し、承認されていることを確かめる。

<手順>

- ・DFDKVZ00(得意先一覧)を出力し、申請書と突合して確認する。
- ・F_KNA1_BED(得意先勘定権限)のみがワンタイム得意先を登録していることを確認する。
- ・得意先マスタ関係は/n suim を使い、XD03(販売会計共通)、VD03(販売)、FD03(会計)で照会して確認する

6. 成果物の公開

- 学会のホームページ上で公開し、SAP ERP 業務処理
統制監査で活用できるようにする。

7. 今年度の研究課題

- 今年度は、今回作成した評価手続例をさらに発展させる
 - － 夏場の実機を用いて、今回の評価手続例に記載したコマンドを含め、その他監査に有用な画面、帳票の情報を整理する。
 - － これを受け、評価手続例の充実を図る。

会計システム専門監査人部会活動報告

- ご清聴ありがとうございました。